

# 知的障害特別支援学校におけるキャリア発達を促す授業づくり —高等部「木工班」における作業学習を事例として—

原田孝祐\*, 東信之・佐々木全\*\*, 品川倫行・昆亮仁・安久都靖・藤谷憲司\*\*\*

岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻\*

岩手大学大学院教育学研究科\*\*, 岩手大学教育学部附属特別支援学校\*\*\*

(令和3年3月4日受理)

## 1. はじめに

キャリア教育は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義され、学校教育においては、これが重要視されている(中央教育審議会, 2011)。これに関わって、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」が提案されている(国立特別支援教育総合研究所, 2010)。この内容事項について、「学校時代のキャリア教育の目標そのもの」(渡辺, 2013)とされ、この活用の意義が指摘されている。実際に、特別支援学校におけるキャリア教育の取り組みは、この「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」の活用によるものが多い(例えば、北村, 2016; 松永, 2017; 藤澤, 2020)。これらの実践においては、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」の内容項目を、当時の「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」ではなく「基礎的・汎用的能力」で捉え直されている。この「基礎的・汎用的能力」は、その4つの能力を統合的に捉え、資質・能力を三つの柱で整理した例が示された(中央教育審議会, 2016)。このことから「育成を目指す資質・能力」に「基礎的・汎用的能力」が含意されていると解釈され、「基礎的・汎用的能力」の体系でキャリア発達を内容事項とした「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」を基にした研究や実践が積み重ねられることは妥当であると言える。

また、この実践例の一つには、知的障害を対象とする岩手大学教育学部附属特別支援学校(以下、本校と記す)による実践研究があり、ここでは、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」をリメ

イクした「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年)」が考案されている(石川, 2014)。

これに関わって、その内容事項とそれに対応する実践事例を対照したところ、本校におけるキャリア教育の取り組み状況及びその様相として、日常の授業実践中において、内容事項に適合するものが取り組まれているものと解釈された(上川・小山・名古屋他, 2019; 原田・大森・佐々木他, 2020)。

しかし、これらの実践が、本校及び各授業者において意図的・計画的な実践であったかは不明であり、キャリア教育を日常の実践の中で意図的・計画的に取り組むための、あるいはそれを明示的に取り組むための、授業づくりの内容と手順を明らかにすることが必要であろう。

そこで、知的障害特別支援学校におけるキャリア発達を促す授業づくりの内容や手順を探索する授業実践を行った。本稿は、その経過について報告する。

## 2. キャリア発達を促す授業づくりの構想

キャリア発達を促す授業づくりのための内容と手順について、「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年度)」と、本校における「授業づくりの視点」(岩手大学教育学部附属特別支援学校, 2015)を素材として構想した。これらを図1と表1にそれぞれ示した。具体的には、「授業づくりの視点」は、学習指導案様式に反映し、この内容は、学校教育目標や学部目標を単元の中で具現化していくための視点である。これを「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年)」の内容事項と関連付けた学習指導案の様式を考案した。また、これをもって、キャリ

ア発達を促す授業づくりの内容と手順(以下、要領)とした。この概要と説明を表2に示した。

ここでは、「内容と記述例」における、小見出しと、具体的内容の記述の中で、「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年)」の内容項目を反映した。

例えば、「単元の設定」では、【やりがい・生きがい】や【役割】、【様々な情報活用】の内容事項が意図され、それらの内容事項の具体的な記述がなされている。なお、表2の中では、当該箇所について下線にて示した。

本校のキャリア発達に関する願う姿 (平成25年度)			
【学校教育目標】 児童生徒の個別の教育的ニーズにこたえ、その成長と発達を支援し、充実した学校生活を通して、自ら学ぶ意欲をもち、日々の生きる喜びを感じ、将来の社会生活において主体的に生きていく人格の育成を目指す。			
【目指す児童生徒像】			
1 豊かな心と丈夫な体を作る人	2 生活に必要な技能を高め、意欲をもって活動する人	3 みんなと仲良く協力し合い、生活の中を楽しみをもてる人	4 自ら進んで仕事をし、働くことに生きがいをもてる人
【各学段目標】			
小学部	中学部	高等部	
1 元気に生き生きと活動する児童 2 身がなことに関心をもち、意欲的に生活する児童 3 みんなと仲良く、協力し合って活動する児童 4 手慣れた作業などをすすんでする児童	1 丈夫な体をつくり、すこやかな心をもつ生徒 2 生活に必要な基礎的な専門を身に付け、主体的に活動する生徒 3 みんなと協力して楽しく意欲的に活動する生徒 4 自分の役割や仕事を最後までがんばる生徒	1 豊かな心をもち、健康でたくましい生徒 2 社会生活に必要な知識、技能を高め、主体的に社会参加する生徒 3 周りの人に自分からかわり、みんなと協力し合える生徒 4 働くことの意義を理解し、最後までやり遂げる生徒	
※1	※2	小学部の願う姿	中学部の願う姿
【意 見 表 現】	●日常生活に必要な意欲の表現を行う。	●自分の思ったことを相手に伝えようとする。	●自分の思いや考えを伝えたり、必要な支援を適切に求めたりする。
【集 団 参 加】	●教師や友達とやりとりをしたり、集団へ参加したりする。	●教師や友達と共に活動し、集団の中で自分らしさをもちたい力を発揮する。	●社会の一員として活動し、良好な人間関係をつくる。
【場 に 応 じ た 言 動】	●挨拶、返事をしする。	●状況に応じた言動をする。	●場や状況に応じた言動をする。
【働くための習慣形成】	●生活リズムを整え、基本的な生活習慣を身に付ける。 ●基本的生活習慣・体力 ●職業生活に必要な生活習慣	●一人でできる基本的な生活習慣を習得する。 ●活動をやり遂げる体力を身に付ける。	●職業生活に必要な習慣について知り、実行する。 ●職業生活に必要な体力を身に付ける。
【様々な情報の活用】	●日常生活でのおおよその予定や活動に対する見直しをもつ。	●生活に必要な情報を知り、活用する。	●社会の様々な情報やサービスについて知り、活用する。
【ルール・マナー】	●学校のきまり、日常生活の約束事を知って守る。	●集団生活のルールやマナーを守って行動する。	●社会の法律やきまり、ルールやマナーについて理解しようとする。
【金 銭】	●お金の大切さを知り、お金のやり取りをする。	●体験を通してお金の役割を知り、使い方が分かる。	●働くことと給料、生活の中のお金の使いについて理解する。
【自己選択】	●自分の好きな遊びや活動を選択し、すすんで活動に取り組む。	●自分のやりたいことや、良いと思うことを選び実行する。	●経験や情報に基づき、自分の意思と責任で選び、行動する。
【役 割】	●生活の中の自分の役割を知り、実行する。	●集団の中の自分の役割を理解し、実行する。	●社会生活の中で、自分の役割や分限を理解し実行する。
【目標設定】	●目標を意欲し、活動する。	●目標を意欲し、達成に向けて活動する。	●自分の目標を設定し、達成に向けて活動に取り組む。
【自己評価】	●認められたり、ほめられたりすることにより自分の良さに気付く。 ●自分の工夫・思いのやり ●自己評価	●がんばったことを振り返り、次の活動につなげる。 ●活動場面や自分なりに気付き、工夫して行動する。	●自分の活動を振り返り、良かった点や改善点を把握し、次の活動に生かす。 ●働くことと余暇とのつながりを理解し、余暇を活用する。 ●将来の生活を思い描く。
【やりがい・生きがい】	●活動を楽しみながら、楽しんで活動する。(低)	●活動を楽しみながら、意欲的に取り組む。(中)	●活動を最後までやり遂げ、達成感を得る。 ●自分の仕事に最後まで取り組み、やりがいを感じる。 ●働くことと余暇とのつながりを理解し、余暇を活用する。 ●将来の生活を思い描く。

図1 「本校のキャリア発達に関する願う姿 (H25年)」

表1 本校の授業づくりの視点

授業づくりの視点と方向性	授業づくりの視点の具体的内容
①単元の設定 学部目標に基づいて目標を設定 どの児童生徒も目的をもち取り組める単元に	○児童生徒の実生活に結び付いた単元 ○興味・関心や願いを取り入れた単元 ○活動の流れやつながりが明確な単元
②単元の計画 単元の目標に基づいた指導計画 中心になる活動を繰り返す活動に	○まとまりのある計画 ○繰り返すことで活動を積み重ねることができる計画 ○発展性のある計画
③活動内容 単元の計画を推進するための授業の展開 どの児童生徒も存分に活動できるように	○集団の中で、人と関わり、自分の役割を遂行できる活動内容 ○自分のもっている力を生かし、やりがいを感じる活動内容 ○自分で考え、行動できる活動内容 ○達成感、充実感を得られる活動内容 ○自己選択・自己決定できる活動内容
④学習内容への支援 教材教具・場の設定・教師の働き掛け 分かって動き、十分に活動できるように	○児童生徒が自分でできる教材・教具 ○自分から活動できる教材・教具 ○十分に組み立てる活動量と時間 ○活動しやすい道具の配置、動線 ○児童生徒が自分でできるような教師間の連携 (T・T)
⑤協働的活動への支援 児童生徒同士の関わりへの支援・教師との関わり 教師も共に活動しながら、共感的に支援できるように	○共に活動する友達に関心を向け、友達や教師と共に活動できるようにする。 ○教師は児童生徒と共に活動し、児童生徒の自分でできる状況をつくるような適切な関わりをする。

表2 キャリア発達を促す授業づくりの内容と手順の概要

内容と記述例	説明
<p><b>1 単元の設定【テーマを共有し、全員が精いっぱい活動し、やりがいを感じられる単元に】</b>            高等部では、「木工班」「手織班」「陶芸班」の3つの作業班により、ガン工房を組織し、日々の作業学習に取り組んでいる。ガン工房では、週末の作業終了時に「ガンフ集会」を設定し、各作業班の取り組みを報告したり、単元のテーマや目標、注文販売の進捗状況等を共有したりしている。            前単元では、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、保護者や職員を対象とした注文販売に変更し、作業班ごとに製品作りに取り組んだ。本単元では、11月に本校文化祭である「あにわ祭」での対面販売を計画し、当日の販売会に向けて、作業班ごとの製品づくりに取り組む。            木工班では、「附特ベンチシリーズを作ろう～あにわ祭販売会をしよう～」のテーマの下、附特ベンチシリーズ（ミニベンチ、ちびベンチ、ロングベンチの総称）作りに取り組む。生徒一人一人が自分の役割を担い、見通しをもって精いっぱい活動に取り組むことで、自分たちで製品を作り上げたという達成感や成就感を味わえるようにしたい。それが今後のより良い製品を作ろうとする生徒の姿や、将来の社会生活における働く喜びや生きがいにつながってほしいと願い、この単元を設定した。</p>	<p>「生徒一人一人が自分の役割を担い、見通しをもって精いっぱい活動に取り組むことで、自分たちで製品を作り上げたという達成感や成就感を味わえるようにしたい。それが今後のより良い製品を作ろうとする生徒の姿や、将来の社会生活における働く喜びや生きがいにつながってほしい」という記述によって、【やりがい・生きがい】や【役割】、【様々な情報の活用】などの観点を反映している。</p>
<p><b>2 単元の計画【中心となる活動を繰り返し、自分の役割を遂行することを通して、期待感や責任感を高め、意欲的に活動できる計画に】</b>            本単元は、約3ヶ月の計画で取り組む。生徒全員がベンチ製作を前単元で経験しており、どの生徒も概ね2つ程度の工程を担当することができる。ただし、夏休みを挟み、前単元から1か月以上の期間が空いたため、単元の序盤では、担当がある程度固定し同じ工程に繰り返し取り組み、改めて見通しをもてるようにする。また、担当の工程に精いっぱい取り組みみんなで附特ベンチを作り上げたという達成感を味わえるようにしたい。前単元での販売実績をもとに、木工班全員で目標台数を決め、自分たちで決めた目標数の製品を作ることで、責任感や意欲を高め、より良い製品を作ろうとする生徒の姿を育てたい。            そこで、第1次では、販売会の日程の確認や、前回の販売会を思い出しながら、ベンチシリーズの目標台数を決めて見通しをもてるようにする。第2次は、木工の部材や道具の準備など、製品作りにおける工程を役割分担し、中心となる作業を繰り返すことで、役割や作業手順などを覚え、見通しをもって作業に取り組めるようにする。第3次は、製品作りに加えて、販売会に向けて値札付けや袋詰めなどの準備の活動にも取り組み、販売会に向けて期待感を高めていく。第4次では単元期間中に製作した製品をあにわ祭の来校者に販売する販売会を行い、木工班の製品のほか、手織班や陶芸班の製品を販売する。第5次では写真で振り返ったり、売上金の計算や報告を行ったりして、一人一人が力を発揮し、協力して取り組んだ販売会であったことを実感できるようにする。さらには、お客様からのアンケートをまとめ、今後のより良い製品作りをする意欲や期待感を高めたい。</p>	<p>それぞれの小単元の中で、生徒一人一人が自分の役割を遂行しながら、集団での目的達成に向けたやりがいを感じられるような計画を設計する。これは、特に【役割】や【集団参加】の観点を反映している。</p>
<p><b>3 活動内容【やりがいを感じ、自分で考え、工夫しながら精いっぱい活動に取り組めるように】</b>            附特ベンチ作りでは、製材、墨付け、穴あけ、面取り、研磨、塗装、組み立て、ダボ作りなどの工程を分担して取り組む。役割分担は、生徒がやりがいを感じられるよう、生徒のできる活動や得意な活動にする。自分の担当する工程に見通しをもち、自分の力を十分に発揮できるように、一定期間役割を固定して取り組む。生徒によっては、その日の体調を基に話し合っ活動内容や活動量を設定する。</p>	<p>生徒一人一人が見通しを持ち充実感や達成感を感じながら、精いっぱい役割を遂行できるような活動内容の設定や、生徒自身が自分で考え、行動できるような活動内容の工夫も行うなど【やりがい・生きがい】や【役割】、【自己選択】の観点を反映している。</p>
<p><b>4 学習内容への支援【見通しをもって、自分から時間いっぱい活動に取り組めるような支援に】</b>            生徒が自分の力を発揮しながら作業できるように、できる活動や得意な活動、興味関心の高い活動を組み入れ、生徒の実態に合わせた用具や補助具を準備したり、手順表や確認シートを準備したりする。またベンチ完成までの工程が分かり、効率よく活動できるように、完成までの流れや部材の名前の掲示、作業しやすい動線や機械の配置、道具の置き場の固定を行う。            最後まで生徒一人一人が時間いっぱい活動に取り組めるような活動量を準備し、必要に応じて個々に活動時間や目標数を設定する。場合によっては、活動中に目標の確認をしたり出来栄えについて確認したりして即時評価の声掛けを行う。終わりのミーティングでは、その日の作業の振り返りや成果を発表することで、自分の活動に達成感を味わえるようにする。            作業中は生徒が安全かつ正確に作業を進められるように教師を配置し、適切に関わるようにする。</p>	<p>【様々な情報の活用】の観点に含まれる、「見通し」の内容を重視し、また、生徒一人一人が自分の力を十分に発揮し、活動にやりがいを持てるような支援を行っている。</p>
<p><b>5 協働的活動への支援【テーマを共有し、作業班の一員として、お互いを認め合いながら活動できるような支援に】</b>            木工班では、テーマを共有し、自分の工程を精いっぱい活動することが協働につながるかと考えている。活動内容は一人で取り組むものが多く、作業中の生徒同士、教師と生徒の言葉での関わりは多くはないが、仲間とペアになる活動では必要に応じて仲間と声を掛け合ったり合図を出し合ったり、機械の不具合等の報告や出来栄えに関する相談をするように促したりする。教師は、生徒と一緒に作業や工程の一部を担当し、場合によっては動作の補助をしたり、励ましや称賛の声掛けをしたりする。また、終わりのミーティングでは、一緒に働いている仲間の頑張っている様子や完成品を紹介し、一人一人が大切な役割を担っていることをお互いに認め合い、教え合ったりし、みんなでベンチ作りを頑張ろうとする意欲を喚起していきたい。</p>	<p>全員がテーマや目標を共有しながら、自分の工程を精いっぱい活動することを協働と捉え、生徒の活動に対する即時的な評価を通して、【自己評価】の観点に含まれる「自己肯定感」の向上や、【やりがい・生きがい】を得ることを期す。また、活動の中で、将来働く上でも重要となる、報告・連絡・相談といった行動が適切に行えるように支援をし、【意思表示】の観点を反映している。</p>

### 3. キャリア発達を促す授業づくりの実践

考案された要領を基に、授業実践を行った。ここで、対象生徒一名を例に、その当初の個別の指導計画を表3に示した。また、実践後に手立てを改善した個別の指導計画を表4に示した。

実践当初の対象生徒について、「担当する作業工程の内容と手順を理解し、毎日の作業に取り組んでいる。一方で、活動と活動の間のインターバルが長くなってしまっているため、作業量が他生徒に比して少なくなる。」と評価された。これに基づき、目標が「サンダー掛けを時間いっぱい繰り返し取り組む」と設定された。

ここには、「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年度)」における【役割】、【やりがい・生きがい】が反映されたため、この目標の評価をもってキャリア発達を包括的に評価することを想定した。この目標の実現のために、支援の手立てとして「見通しを持てるように、一日の作業量を確認する」を設定した。

その後の対象生徒について、「見通しは持っているものの、活動と活動の間のインターバルが長く、結果的に作業数は多くなかった」と評価された。これ

に基づき、対象生徒のインターバルが減少せず、授業目標の未達成が解釈された。

そこで、支援の手立ての改善として、「やりがいを感じながら活動できるように、作業の出来栄を、作業終了のタイミングで即時的に評価し、称賛する。」とした。

さらにその後の対象生徒について、「出来栄について称賛の声掛けをすると、嬉しそうにサンダー掛けをした面を触りながら、十分に研磨されたことを報告しており、やりがいを感じながら自分の役割を果たす様子が見られた。」と評価された。これに基づき、対象生徒の目標の達成が解釈された。

以上から、要領を用いた授業実践によって、対象生徒の目標が実現され、そこに含まれていた「キャリア発達に関する願う姿(H25年度)」の内容事項である【やりがい・生きがい】と【役割】について、その発達が促されたものと解釈された。これらの解釈は、要領を用いることで明示化されたものであろう。すなわち、要領の使用によって、キャリア発達に着眼する教員の見取りに一貫性が担保されるためといえた。

表3 対象生徒の個別の指導計画(前)

目標	手立て	評価
サンダー掛けを時間いっぱい繰り返し取り組む。	見通しを持てるように、一日の作業量を確認する。	見通しが持てるように活動開始前に本日の作業量の部材を一括に確認していた。結果、見通しは持っているもの作業のインターバルが長く、結果的に作業数は多くなかったため、手立てに検討が必要であると感じた。また、本人の発言から作業量よりも、出来栄に着目している様子が窺えた。

表4 対象生徒の個別の指導計画(後)

目標	手立て	評価
サンダー掛けを時間いっぱい繰り返し取り組む。	やりがいを感じながら活動できるように、作業の出来栄を、作業終了のタイミングで即時的に評価し、称賛する。	作業の間、集中して取り組み続けている様子が見られた。サンダー掛けでは、出来栄について称賛の声掛けをすると、嬉しそうにサンダー掛けをした面を触りながら、十分に研磨されたことを報告しており、やりがいを感じながら自分の役割を果たす様子が見られた。次時では、他の生徒が担当する工程の出来栄についても触れながら、さらに役割意識ややりがいを感じながら活動できるようにしていきたい。

さて、実践中に第一筆者によって作成された日誌や授業記録の記述から、要領が日常の授業づくりにおいて円滑に使用されたかを確認した。関連する記述内容を表5に示した。これらから、要領に基づく実践のプロセスとして、次の三つの段階が示された。すなわち、①実践初期における要領の共通理解にかかる努力を要す段階である。これは「(第一筆者が)木工室にて明日の作業分担の確認と準備をし、指導案として書き起こした。指導案については本校教員に助言をもらい、完成したものを、明日の授業を担当する教員にお配りした。」との記述によった。②実践中期における要領の使用にかかる馴化が生じる段階である。これは「毎日指導案及び個別の指導計画を作成し、毎日授業準備をし、毎日授業をするということを経験した。慣れないことばかりで、忙しいと感じる」との記述によった。③実践後期における、要領の使用の定着が生じる段階である。これは「毎日の授業実践について、指導案を書くことも、個別の指導計画を書くことも、日常の業務として慣れてきていると感じられた。」との記述によった。

以上から、日常的なPDCAサイクルの活用が示され、これによって要領が、単元期間中の実践に親和的に取り入れたと考えられた。

#### 4. まとめと今後の課題

「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年度)」を、本校の授業づくりにおいて使用されている学習指導案様式に取り入れた要領を用いた授業実践に、PDCAサイクルを重ねるならば、Pは、要領を基に日常の作業学習における学習指導案作成、個別の指導計画作成を行うことである。Dは、毎日の授業実践をすることであり、Cは、「本校のキャリア発達に関する願う姿(H25年)」の内容事項を観点とした個別の指導計画の評価である。Aは、次時の学習指導略案や個別の指導計画の改善策の考案のことであった。

その上で、次の2点が効用として示唆され、また、今後期待された。すなわち、①授業づくりをキャリア発達の視点で一貫して行うことがしやすいこと、すなわち、教員がキャリア発達を踏まえた児童生徒の目標を検討しやすくなることである。②実践において要領を使用することに負担感が少ないこと、すなわち、日常の授業づくりにおける導入と持続的な使用がしやすいこと、であった。

本研究は、高等部における一事例による実践であった。今後は、小学部・中学部での活用を想定し、各学部での実践的な検証が必要であろう。また、本

表5 要領に関連する日誌や授業記録の記述内容

月日	記述
8月27日	木工室にて明日の作業分担の確認と準備をし、指導案として書き起こした。指導案については本校教員に助言をもらい、完成したものを、明日の授業を担当する教員にお配りした。今週の目標は「導入」なので、まずは生徒たちが、何を作っていて、いつ販売するのか、そして、目標個数、これらについて、導入の時間で丁寧に確認していきたいと思う。
8月31日	明日の作業についての確認及び準備と、指導案、指導計画の作成を行った。それを踏まえ、授業を担当する本校教員と10分程度のミーティングを行った。個別の指導計画を継続的に立てていくことはあまり負担にならないと感じているが、目標の抽象度や適当さなど、まだまだ上手く立てられているとは言い難いため、内容についても随時改善していきたい。
9月4日	毎日指導案及び個別の指導計画を作成し、毎日授業準備をし、毎日授業をするということを経験した。慣れないことばかりで、忙しいと感じるのが正直な感想ではあるが、現場の教員は、このプロセスを当たり前に行っているのだろうと思う。この当たり前に行われている内的なプロセスを指導案として言語化することで、日々の授業がより効果的に、そして取り組みやすくなっていると感じる。
9月24日	最初は毎日指導案を書き、個別の指導計画を書き、授業を行うことについて不安が大きかったが、毎日の授業実践について、指導案を書くことも、個別の指導計画を書くことも、日常の業務として慣れてきていると感じられた。
9月28日	最近では、指導教員に指導案や個別の指導計画を確認してもらわなくなっている。まず、第一に、指導案を見せなくても、共有ができるため、毎回指導案と個別の指導計画を書いて、見てもらうのは業務上不必要と判断した。そして、第二に、先生方の普段の業務においても、指導案を使うか否かに関わらず、事前に共有することはほとんどない。少しずつ、先生方と同じリアルな就業環境の中で、授業づくりが可能になっていると感じた。

研究では、キャリア発達の評価については、教員の解釈に留まった。北村（2016）が、キャリア教育に関する適切な評価基準と方法を開発し、授業改善につながる評価を行わなければならないと指摘するように、キャリア発達の評価方法の検討が必要である。

### 付記

本研究の実施及び公表に際しては関係者の許諾を得ました。また、授業実践は日常の授業実践中における取組の範囲内で行われました。なお、いわて子ども主体の知的障害教育を学ぶ会の協力を得ました。関係の皆様記して感謝申し上げます。

### 文献等

- 中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申). [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf) (2020. 2. 12. 閲覧)
- 中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における学習指導要領改訂の方向性について(答申). [https://chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf) (2021. 1. 18. 閲覧)
- 原田孝祐・大森響生・佐々木尚子・田淵健・中軽米璃輝・藤川健・藤谷憲司・上濱龍也・名古屋恒彦・東信之・佐々木全（2020）知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実際（3）－「キャリア発達に関する願う姿」と授業内容の対照から－. 教育実践研究論文集, 7, 123－128.
- 藤澤憲（2020）知的障害特別支援学校におけるキャリア発達表を活用した授業づくり・授業改善の成果と課題－キャリア教育に関する小・中学部教員の意識調査を通して－. 人間生活文化研究, 30, 103－121.
- 石川則子（2014）附属特別支援学校におけるキャリア教育の実践研究の取り組み. 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 1, 17-21.

- 岩手大学教育学部附属特別支援学校（2015）研究紀要 No.24. <http://www.edu.iwate-u.ac.jp/fuh29/kokai/H29kokaisiryu/kenkyu-kiyo/kiyo24.pdf> (2021. 1. 16. 閲覧)
- 上川達也・小山聖佳・名古屋恒彦・高橋縁・安久都靖・小山芳克・岩崎正紀・中村くみ子・清水茂幸・東信之・佐々木全（2019）知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実際（2）－「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」の授業実践を通じて－. 岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 3, 249-258.
- 北村博幸（2016）知的障害教育におけるキャリア教育の現状と課題. 北海道教育大学紀要. 教育科学編, 67(1), 107－115.
- 国立特別支援教育総合研究所（2010）『知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」』（知的障害のある児童生徒の「キャリア発段階・内容表（試案）」改訂版）. [https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/119/B\\_career.pdf](https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/119/B_career.pdf). (2021. 1. 25. 閲覧)
- 松永繁（2017）日本におけるキャリア教育と課題－キャリア教育先行研究からの検討－. 敬心・研究ジャーナル, 1(1), 27－36.
- 渡辺三枝子（2013）キャリア教育の理念と特別支援教育における今後の展望. 発達障害研究, 35(4), 279-286.